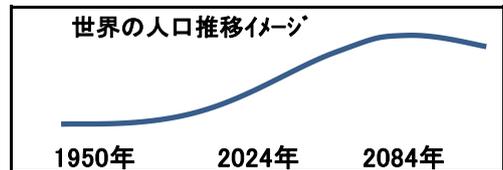


デザイナーのための経済コラム(57)

大きな変化、小さな変化

世界の人口は 1950年 : 24億9309万2848人
国連の統計によると 2024年 : 81億6197万2572人
ピークは2084年と予測 2084年 : 102億8931万5244人
されています。



<https://sekai-hub.com/statistics/un-world-population-prospects>

日本の人口ピークは2008年・1億2808万人でした。その後減少に向かっていきます。少子高齢化は日本だけに限ったことではありません。イタリア、スペイン、ポルトガル、タイ、韓国など23ヶ国の人口が半減するととの予測があります。

<https://www.bbc.com/japanese/53413717>

世界の環境問題の根源の大きな一つが人口の増大です。人口の増大は資源の国際配分で紛争の原因になっています。一方で消費の拡大、生産の拡大、経済の拡大、利益の拡大、格差の拡大にもなってきました。また、宗教的、倫理的に、新たな問題も意識されるようになってきたように思います。

人口減少が現実に行進していくと、環境問題は新たな次元に入っていくように思います。人口減少で、心配される問題点は、生産力の低下、消費量の低下、生活の質の低下、文化度の低下、国力の低下が進行するとされています。政治分野(立法、司法、行政)、産業分野(一次産業、二次産業、三次産業)、科学分野(自然科学、社会科学)、芸術分野(絵画、彫刻、音楽、演芸...)、これらの分野は重複する部分もありますが、部分だけを見るのではなく、全体を俯瞰・鳥瞰することが必要かと思えます。

「八百屋」、「魚屋」、「お菓子屋」、「荒物屋」、「呉服店」、「下駄屋」、「醤油屋」、「酒屋」のような小売業の名前よりも、「スーパー」、「コンビニ」、「ホームセンター」の方が一般的で「八百屋」とか「魚屋」というと、何か特別な雰囲気、特別な意味があるように思います。それは(小規模店)、(個人経営)、(近所)、(昭和)を感じさせます。事業活動の生産性の追求が規模の拡大になっていったことが背景にあると思います。その背景にはレジ機器がPOSシステムに直結して顧客管理、仕入れ管理、在庫管理などが容易になったこと、一般化したことと思えます。

スーパー:24社・1,228店舗 / コンビニ店舗数:56,500店舗 / ホームセンター:30社・4,536店舗

情報媒体をメディアと呼ぶようになりました。新聞、雑誌、図書の印刷されたものが、ラジオ、テレビの電波になり、アナログ電波がデジタル電波になり、中波、短波の電波がマイクロ波になり電波の使用単位が桁違いに拡大しました。数字の桁の呼び方は大きい方にも小さい方にも拡大していききました。テラ、ナノの単位が表記されることも増えてきました。情報分野、通信分野では媒体が多様になることで便益が大きくなる一方、新たな課題、情報格差、情報リテラシー、フェイクニュース、特殊詐欺、個人情報漏洩などが問題も顕在化してきました。これは50年ほど前から情報革命と呼ばれていますが、その基底にあるのはデジタル技術と発想・思考の自由度、多様性の拡大、容認があったからと思えます。

2024年下期の平均販売部数は、5紙合計で約1,262万部。年間5~6%程の減少率

世帯当たりの購買部数変化:1.13部/2000年 ⇒ 0.45部/2024年

<https://www.pressnet.or.jp/data/circulation/circulation01.php>

繊維素材が天然が当たり前だったものが、人造、合成の素材に置き変わることが当たり前になり、合成繊維の発展が衣料の世界を量的、質的に豊かにしてきたことに誰も異論はないと思います。しかし、化石燃料由来の合成繊維衣料は廃棄時に環境問題になりました。繊維業界、衣料業界は素材のリサイクル、再生可能素材の開発に、持続可能な自然素材の開発に方向転換を進めています。生物の多様性、遺伝子保存のためにも天然繊維の技術伝承が見直されて来ました。

金属元素の種類は限られていますが、精錬の高度化、合金の多様化によって、金属の使い方も変わってきました。世界で一番多く作られ、使われている金属は鉄鋼です。2024年の粗鋼生産量は18億8,388万トンです。その内、中国が1位で53%、インドが2位で8%、日本が3位で4%です。日本は1995年に1位を取ったものの、その後は中国、インドが1位、2位占めています。 https://www.globalnote.jp/p-data-g/?dno=930&post_no=1402 中国は量で世界の1位になって、低価格で輸出することで、アメリカの高い関税を誘発したと言えると思います。日本は量では大きくしていませんが、質では用途、形状、サイズ、組成を多様化することで業界を強化、成長しています。JISでは鋼材を大分類で25分類に、中分類で230分類、小分類ではさらに30項目に分類されているものがあります。細かな分類が出来るのは、材料工学、性能評価能力があることかと思えます。少量であってもレアタル、レアースが重要になってきました。 https://www.toishi.info/sozai/jis_list.html

では、日本の建築分野で何が大きな変化としたらいいのでしょうか。職住分離、生活様式変化、都市集中、超高層化、高価格化、CAD化、耐震強化、環境負荷評価、建築家の国際活動.....

大きな変化は小さな変化の集積であり、大きな変化の予兆とも思えます。小さな変化に気付かなければ、大きな変化にも気付けないと思います。私には見えていない、気付いていない大きな変化がまだまだあるように思います。同じような意味で、違いが分かること、気付くことも大事だと思います。

(T.K.)